

任地訪問 LUWEERO 後の感想 < 全体から >

LUKOMERA PRIMARY: Lesson of Sign Language

- 知的障害の生徒を対象に基本的な内容をゆっくり繰り返し教えていてわかりやすかった。
- 文字だけでなく、視覚や感覚を使わせた授業が工夫されていた。
- ウガンダ人の先生と日本人の先生の T T (Team Teaching) がよかった。
- 「誰一人こぼさず」という先生方の姿に感動した。
- 具体物を使っていてとてもわかりやすい授業でした。
- 途中でクラスを半分に分けたのは、子どもたちの理解度を深めるのに、とても効果的だったと思った。
- カウンターパートとの連携が非常によくとれていて、授業がスムーズだった。
- 千夏さんの子どもに対する笑顔、優しさ、愛を感じられてよかった。子どもが安心して授業を受けられていた。
- 子どもが子どもを指名する方法がよかった。
- 手話だけでなく、口をはっきり動かした上で言葉もつけて授業をした方が、あの子どもたちが社会にでた時に役に立つのでは...と思った。
- 体験から学ぶ授業の形態が素晴らしいので、ジェリ缶の数を増やすなど、いろんな子に体験させるとよかった。



NSAWO PRIMAY: Lesson of Music

- 授業の流れを「1時間の最初」に子どもたちに知らせる工夫がとてもよかった。
- Good: introduction of the lesson.
- 黒板に今日のポイントを書き、終わったら消していくという工夫がとてもよかった。
- 評価をしっかりと意識した授業の流れだった。
(4つの視点)
- 「静かにしなさい」という必要がないくらい、子どもたちが集中していた。
- 子どもたちのリズム感を引き出す授業だった。
- 美花さんの子どものリズムをフォローする動きがすばらしかった。



○教室から外への移動の際、子どもたちは並んで楽しそうに歌っていたのがよかった。

○まずは見本を示し、子どもに参加させ、一緒に挑戦していた流れがよかった。

→個→グループ→全体という流れ

○教室にたくさん写真が貼ってあったので、子どもたちも学校に来るのが楽しみになると思う。

●あきさせない手法がとてもよかった。リズムの時も外でやってもよかったかなと思った。

●カウンターパートは今回座っていたが、いつもの授業ではどのようにかかわっているのか、見たかった。



< その他 >

○授業のあとの協議会がとてもよかった。

○先生方の意識改革のきっかけになりそう。



< ひとりごと >

今回の任地訪問は、山田さんと榊原さんが1日のスケジュールを綿密に詰めていたため、スムーズな1日だった。

参加者は日本人20人、カウンターパート6人、ウガンダの先生方16人となり、日本人とウガンダ人がともに学び合う時間を共有できた。

全体の感想からもわかるように、授業では様々な工夫がなされ、その1つ1つに対して、ダイレクトなコメントが返ってきている。これは山田さんと榊原さんの視点が明確だったからであろう。特に、

< 山田さんの授業 >

子どもにとってわかりやすい授業

→視覚や感覚を使う。具体物を使う。TTの活用等

< 榊原さんの授業 >

子どもたちが楽しむ音楽の授業

→見通しをもった授業。音楽の4つの楽しみ方(評価にもつながる)等。



視点が明確だったということが、協議会の活性化にもつながった。榊原さんの学校の先生方10数人も参加し、活発に意見交換がなされた。

隊員参加者のうち、5人がカウンターパートを連れてきて、カウンターパートも積極的に意見を述べていった。参加したカウンターパートに話を聞いてみると、『1つの授業』を通して、このように学び合えるのはとてもいい。「また参加したい」という。

実際に、岩山さんのカウンターパートは2月の任地訪問でこの会のよさを味わい、今回は2人の先生方が参加してくれた(そのうち1人はダイレクター)。味わってみて初めてわかることがたくさんあるようだ。

「なぜ、任地訪問に来るのか」

「どのような問題意識をもって参加しているのか」

- ・ 障害児教育の学級経営を勉強したい。
- ・ それを他の先生方に伝えたい。
- ・ 自分のフィールドに合った同じような場所から学びたい。
- ・ 他の学校の雰囲気や教師を見ることは刺激になるし、自分を顧みるきっかけになる。
- ・ 私は教育現場での指導の経験がないので、どうやったらわかりやすく教えられるかを学びたくて参加した。
- ・ 同僚に新たな視点をもってもらうために
- ・ プライマリー研究部は真剣な活動を行っているので、一度様子を伺いたかった。
- ・ カウンターパートを連れてくることで、日本人とウガンダ人の学び合う様子が見られると思った。



などの意見があった。

前回もそうだが、村落の仲間や理数科の仲間が顔を出し、いろいろなことを手伝ってくれて、その感想を寄せてくれている。今回は梅垣さんや間さんがプライマリー研究部にとって率直な感想と新たな視点をなげかけてくれた。

翌日の朝も参加者の有志が集まり、次回についての見通しをもつことができた。さらに今までの2回の任地訪問の反省を行うことができた。

今後も様々な方に参加をしてもらい、さらに「よりよい会」にしていけたらなぁと思う。